

声明草案

人類の成員として、この地球上に生まれ^{あわ}合^たせた私達は、
居住する地域や~~各自~~の保持する信念の如何にかかわらず
私^下たち全てに共通する問題に直面していることを認めさ
るを得ません。言うまでもなく、それは人類が今後
も存続し繁栄しつづけてゆくか、~~それは~~戦争によって
破壊するかという問題であります。原子爆弾が出現して
以来、今日までの間に、核兵器とその運搬手段とは著しい
発達を遂げました。その結果現在すでに人類はそれらの
使用によって自らを全体的に殲滅し得るに~~至~~^至り
と推定されております。それにもかかわらず、軍備強化の競
争は依然として続いているのであります。^{この内政への}
~~その~~解答
は、もちろん、人類の破滅ではなく、その存続~~へ~~
向っての方途を示すものでなければなりません。

現代の人類がこのような恐ろべき事態の中におか
れていることを認識している人の数は決して少なくあ
りません。そして、そういう人々の数が、この数年間
に急速に増大してきたことは、国際世論の推移から
見ても明らかであります。

今から7年前の^{ラッセル} Russell 卿と^{アインシュタイン} Einstein 博士
とを主唱者とする~~声明~~に始まる Pugwash 五男科学
ハワイクワシ

c093-014-001

敬を見込めてあります。

1. 科学は私たちの生きてゐる世界に内在する真理の発見によって、人類に貢献してきました。しかし科学に基づいて、~~人間~~技術的に実現し得ることの全てが、人間にとって、また人類全体にとって望ましいものとは限りません。科学の発見した真理を、人類の福祉と平和にのみ役立てるためには、科学者を含む~~人間~~^{下つ}の~~全体~~が、科学の成果の濫用、悪用を防ぐことに^{つづ}不断的努力を続けなければならぬのであります。

2. 戦争がもはや国際間の諸問題を解決する手段と見なされることは、昨秋発表された軍縮交渉のための米ソ共同宣言においても確認されております。にもかかわらず、核兵器の~~脅威~~^{得所には威嚇}そのものが、平和の維持に役立っているという見解が依然として根強く主張されております。しかし、この考え方はきわめて危険であるといわなければならない。~~その~~^{大量殺}兵器による抑止戦略がとられる限り、~~相対峙する諸国は~~必然的により大きな報復力の保持に努め、~~より~~巨大な戦争遂行能力をもちこたへることになるからです。

その結果、~~相手の~~^は~~合理的判断を前提とする戦争の~~
~~合理~~

軍事情勢をめぐって S1-4

抑止は、かえって不安定な情勢となり、偶発事故をまたげるとも、戦力や情勢にたいする誤った判断などにもとめて戦争勃発の危険を増大させることになり得る。したがって、核兵器による戦争抑止という考え方は、~~Russell~~ ~~Einsteins~~ 著の「~~科学の~~基本精神である戦争廃絶」の方向とはほど遠いものであり、私達はこれに反対せざるを得ないのであります。

3. 核兵器実験は、~~核実験の結果として発生する量の放射~~ ~~性物質によって、身体的、および遺伝的障害をひき~~ ~~起すという理由だけからも、即時禁止されたければな~~ ~~りません~~ ~~が~~、それにとらわれない重要なのは、核実験によって軍備競争が激化し、いよいよ国際緊張を強め、いってば核戦争の危険を増大することであり得る。私達は現在行なわれている核兵器実験が直ちに中止され、核実験停止協定が一日も早く結ばれることを強く要望せざるを得ません。

小型地下核爆発を除いたすべての核爆発実験が、現在の探知網で探知、識別でき、科学の進歩は探知可能性をますます高めていることは衆知のことであり得る。重要な核爆発実験はすべて探知でき、私達は国際査察制度をつくらねば、探知可能な

すべての核爆発実験の停止協定が、すべての核兵器保有国の間で直ちに結ばれることを要求いたしました。
4. 全面完全軍備撤廃への希望を全会一致で採択した国連総会の決議を思い起こすまでもなく、真の解決は核兵器をなくす軍備の縮小、そしてさらに進んでは完全軍備撤廃が実現される以外にはありません。

目下ジュネーブで行われて一ヶ月にわたる18ヶ国軍縮委員会に、戦争防止のために有効であると思われる、多くの具体的な提案が出されていることは私たちに希望を抱かせます。

教務員に効果的を

私たちは核兵器撤廃手段を廃棄し、外国におかれていた軍事基地を撤去することは、特に望ましいという点に意見が一致いたしました。したがって私達は軍縮の第一歩として北極圏を含むアジア太平洋地域の核非武装地帯を設定することを強く要望いたします。

5. 軍縮を実現するためには、人類の福祉とは全く逆行する死の道具の生産にむけられて、現在の経済的構造の正入った分析を必要とするという点でもありません。最近国連総会で満場一致で採択

これに沃試案にもヒグキ、¹²口運事務総長が「¹⁷専門別、地域別、経済発展段階別、経済体別別」に之らんだ米・ソ両口を以て10ヶ口の諸国委員会は全会一致で「軍縮の経済的社会的影響」に関する肯定的な報告を提出してあります。この報告によれば、それだけの口の経済を危険状態¹⁷陥れしめざるに、軍備の縮小をいし、撤廃を実行する可能性があらざりてなく、軍縮の結果として各口民の生活水準を大中に向上することかできるのであります。私達はこのような研究を高く評価いたします。

しかし軍縮の実現にともなう世界経済の構造的転換の方途をほどもとして、なお多くの解明されなばならぬ問題が残されています。とくに私達としては、日本の経済と軍縮との関係について Russell-Einstein 宣言の線に沿って、広げかつ深刻に検討されることが必要であり有効であると考えます。

長期的観点からして十分

6 戦争と軍備競争の時代を平和共存の時代に移行
させることは、今日全人類が自らの運命をひけて
行わなければならない歴史的な事業であります。
この問題を戦力の均衡としての観点から解決
することはもちろん不可能であり、より高い観見
より正しい道を探り出す必要があります。問題は
政治、経済、科学、思想、宗教等をふくむあらゆる
事柄と深く結びついており、それ故すべての
領域の人々が衆知を傾けて真剣なる研究、検
討をはじめることが不可欠であると信じます。

これらの切実な諸問題に直面して、私達の思
考は無制限の国家主権を前提とする今日の
次元をこえて、開かれていなければなりません。
核兵器競争で如実に示されてくる国家的利己
主義、ないしは法的に無政府状態を打破す
には高い道義的理念とそれにもとづく新しい
法秩序を広い視野に立って検討することが
極めて有意義であると考へます。~~これは平和的
共存の論理的帰結に他ならぬからであります。~~

私達は3日間の本直カ→真鍮を討議を通じ、
このような会合の意義を確認し、更にいろいろと

